

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 30 年度第 2 回会議 次第

平成 30 年 7 月 12 日（木）15：00～

I. 報 告

1. 平成 30 年度第 1 回倫理委員会議事録（案）（平成 30 年 5 月 17 日）
2. 委員長決裁について（2 件）
3. その他

II. 協 議

1. 委員長決裁案件について（上記報告の 2 件）の承認
2. 研究等変更申請の審査（1 件）
3. 条件付承認申請の審査（1 件）
4. その他

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	30.4.1～31.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	長谷川 義明	微生物学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	30.4.1～31.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	野本周 嗣	外科学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	高木 敬一	法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	30.4.1～31.3.31
	黒神 聰		〃	30.4.1～31.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	30.4.1～31.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学教育 学生・国際課 なんでも相談室	〃	30.4.1～31.3.31

平成30年度 第2回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	佐藤 曾士
	研究課題	口唇口蓋裂患者に対する麻酔前投薬の経口投与とケイビ投与の比較検討
	概要	全身麻酔において小児症例では手術に対する強い不安を軽減し、手術という特殊な環境に置かれた患児を精神的な外傷から守るため、麻酔前投薬として鎮静薬が投与される。鎮静薬はベンゾジアゼピン系鎮痛剤であるミダゾラムが一般的であり、これまで筋肉注射による前投薬が行われてきたが、筋肉注射自体が大きな侵襲となるため、新たな投与方法が検討されてきた。筋肉内注射に変わる方法として、日本全国の多くの小児病院では適応外使用ではあるものの、ミダゾラムの経口投与が行われており、その有用性と安全性は確立されている。しかしながら、ミダゾラム経口投与時の問題点としては苦味があげられる。そこで本研究では経口投与に変わる方法として、粘膜から吸収が早く効果発現時間の短縮が期待できるミダゾラムの経鼻投与を、低年齢患者の多い口唇口蓋裂手術で麻酔前投薬として使用し、経口投与に対する経鼻投与の優位性について比較検討することとした。ミダゾラムの経鼻投与方法は、本学歯学部小児歯科福田教授らが報告している方法に則る。
2	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可

平成30年度第2回歯学部倫理委員会議事録

日 時：平成30年7月12日（木） 15時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：千田、前田、長谷川、高木、黒神、柿田、鏡山

（欠席：本田、池田、武部、野本、松原）

報 告

1. 平成30年度第1回倫理委員会議事録について

委員長から、資料により報告があり、原案どおりこれを了承した。

2. 委員長決裁について

委員長から、修正の上承認となっていた2件について、規程6条の9項により委員長決裁を行い承認とした旨、報告があった。

議 題

1. 委員長決裁について

委員長から、修正の上承認となっていた2件について、規程6条の9項により委員長決裁を行い承認とした旨、報告があり、これを承認した。

2. 倫理審査について

委員長から提議され、今回、研究等変更申請の審査1件及び条件付承認申請の審査1件の計2件申請があり、それぞれについて実施責任者または分担者から研究概要の説明を受け判定したい旨述べられ、これを承認し、次のとおり順次実施した。

審査結果について歯学部倫理委員会規程第6条4項に基づき、出席委員の3分の2以上の合意によるものとし、委員長が取り纏めて審査判定を行うこととした。

2件の審査判定について、承認1件、条件付承認1件とした。

次回委員会について

日時：平成30年9月6日（木）15時

場所：楠元キャンパス 1階 第1会議室

閉 会：16時30分